

森田いきいき長寿芸能祭り



自慢の演芸を披露

森田高齢農業者生きがいセンター

2月29日、社会福祉協議会森田支部が主催する「森田いきいき長寿芸能祭り」が行われ、会員150人が参加して盛り上がっていました。

森田地区老人クラブ盛武司会長は「健康であることは対話が弾みます。いきいき祭りでの対話を有意義にしてください」とあいさつし、個人やグループの21団体が歌や踊りと自慢の芸能を発表して楽しい1日を過ごしていました。

ひな祭りでお茶会を楽しむ

社会福祉協議会

3月3日、NPO法人つがる夢庭志仙会のメンバーが福祉事業の一環として社会福祉協議会を慰問し「お茶会」を開催しました。

同会では、いろいろな施設を慰問して本格的なお茶会を開いていますが今回はひな祭りに併せて訪れ、施設の利用者に同会で作ったミニしとぎ餅「こころ」をお茶と一緒にご馳走していました。利用者は「昔の餅より柔らかくておいしい」、「お茶は飲みきれないけど、おいしかった」と話していました。



卒業式に花を添えて

柏ガラス温室

3月4日、柏上古川にあるガラス温室で栽培している観賞用の鉢花「サイネリア」が最盛期を迎えていました。

卒業式シーズンに併せ、小・中学校や保育所での演壇を飾る花は、職員2人で栽培しています。

サイネリアの次には、マリーゴールドを植えて4月に行われる「花いっぱい運動」に使用され、市民の目を楽しませてくれます。

また、一般にも販売していますので一度ご覧ください。



弘南バス2路線廃止で代替交通

車力ふれあい会館

3月6日、3月31日で廃止となる弘南バスの2路線について地区住民を対象に廃止の経緯等の説明会が行われ、40人が参加しました。

廃線は「富蔭・中里高校線」と「稲垣・牛潟線」の2路線で、出席者の大半は現在、中里高校や金木高校に在学、また春から通学する生徒の保護者たちです。

保護者は、市が示した代替交通手段について「今以上に不便にならないように」と、活発な意見を交わしていました。



つがる市がイメージできる絵・版画・愛称コンクール表彰式



市がイメージできる絵・愛称が決定

松の館

3月14日、つがる市の農産物等がイメージできる絵・版画・愛称コンクールの表彰式が行われ、受賞した12人にブランド推進会議の福島会長から賞状と記念品が贈られました。

愛称と絵の部門には5,183点の応募があり、どれも力作ぞろいユニークな作品が多く審査も苦労したそうです。

福島会長は「地域性、独創性が現れており、素晴らしい作品ばかりでした。今後も学校での勉強はもちろん、いろいろな事にチャレンジしてほしい」と講評しました。

おめでとう105歳の誕生日

寿幸会（稲垣町）

3月14日、シルバー創造センター寿幸会館でつがる市の最高齢、今ソワさんの105歳の誕生日を寿幸会の会員と事務局みんなで祝いました。

一足早い誕生会は、「105」を立体型にしたローソクがケーキに立てられ、バースデーソングを歌い、事務局の加藤結花子さん手作りの名前をもじった文章入りの色紙と花束が贈られました。色紙には「**こ**んなにも長生きしたら **にん**きもの **ぞ**れもそのはず 百五歳 **わ**かいものには負けません」と書かれており、今さんはとても喜んでいました。

今さんは、現在も元気に週5日会館に通い、無理をせず少しずつわら草履を製作しており、いつも仲間と楽しく過ごしています。また、食べるものは好き嫌がなく、特に野菜が好きで毎日食べているそうです。

今さんは「若い人には迷惑をかけないようにしている」と話しており、「毎日ここに来て、みんなの顔を見ながら、仕事をするのが楽しみです」と仲間をとっても大切にし、会の皆にも「ソワばっちゃん」という愛称で呼ばれていました。



大空に舞う津軽凧

稲垣町河川公園

3月16日、稲垣凧の会（会長横山勇一）主催による「第14回稲垣凧揚げ大会」が開催され、津軽凧の愛好者ら約250人が参加しました。

市外からも多くの参加者があり、子どもの部、一般の部、団体の部等6種目に分かれて行われ、自慢の凧を空高く舞い上がらせていました。

また、風は凧揚げにはちょっと物足りない風でしたが参加者は糸を引きながら走るなど懸命に凧を風にのせていました。



新しい園舎での初卒園式

車力幼稚園

3月18日、車力幼稚園で新園舎移転後の初めての卒園式が行われました。

14名の卒園児に園長から卒園証書が手渡されると、園児は卒園証書と一緒に一輪の花を添え、お母さんに感謝の気持ちを述べていました。

お母さんは「小学校に行っても、勉強を頑張ってね」とお返しの言葉をかけ、中には涙ぐむ保護者もいました。



つがる市の親善大使、バス市へ出発

松の館

3月21日、米国メイン州バス市訪問派遣団の壮行会が行われ、出発を前した中学生16人の親善大使に、姉妹都市協会の野呂充志会長が「事故のないように気を付けて行ってください」と励ましの言葉を送りました。

生徒を代表して佐藤巴さん（車力中）が「市の代表として、つがる市とバス市の友好が深まるようにがんばります」と述べ、一行は9泊10日の日程でバス市の知事を表敬訪問し、記念植樹等をして交流を深めるため出発しました。

